

光といのち

第108号

—秋彼岸—

2017年9月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

E-メール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌

法語

人生の行き詰まりが
出発点となる道

本多弘之

寺院の「活性化」について

但馬弘（たじまひろし）真宗大谷派宗務総長の標記の文章が、『真宗』7月号の巻頭言として掲載されています。以下は、その一部です。

寺院の「活性化」について考えてみたい。

私たちは、どんな時でも「今のままで留まっていたい」という誘惑

に弱いものである。

門徒の数や法座への参詣

者が減ったことを、「仕方

ない」と済ませてしまいた

いことも事実である。

しかし、寺院をめぐる環境が大きく変わる今という時代だからこそ、「今、目の前のやるべきこと」ではなく、「これからのために本当に考えるべきこと」に、時間をかけて向かい合うべきではないかと思う。

先般の教勢調査の結果でも明示されていたことは、「同朋の会」に象徴される僧俗が共に語り合う「場」が、寺院に開かれていることの重要性だった。

門徒と寺院との結びつきの強さこそが、本来、大切であったはずである。

今ここで、宗門があえて寺院の「活性化」を目指さなければならぬと示すのは、単なる手法を超えて、寺院の根本的なあり方を問う機縁となること願われているからなのだ。

つまり「ひとりの念仏者を見出す」という一点に、私たちの歩みの方向をはっきりさせることが求められているのである。

日々の法務はもちろん、本堂の掃除や境内の草取り、坊守との相談、門徒との語らいなど、すべての私たちの生活が、その一点にあるのだということを確認しなければならぬ。

寺院の「活性化」が意味するところは、寺院の本来性の回復を目指すという、同朋会運動の基本的な願いの再発見に他ならない。

寺院の「活性化」は、その本来性の回復にある。つまり寺院が聞法道場として開かれることだ。

ところで私は、仏教の魅力は世間の感覚とは異次元の視点をいただけるところにあると思っています。

題字下の法語もそれです。

法語は「人生の行き詰まりが終点じゃなくて 人生の行き詰まりが出发点となる道が仏法でしょう」（2009年度版『同朋会館日めくり法語』の一部分です。世間の感覚としては「行き詰



まりは終点」ですよね。痛ましいことですが、新学期の始まる9月初めに子ども自殺が特別多いそうです。今年もそのニュースが報じられていました。その子にとっては、学校生活の行き詰まりは人生の終点としか思えなかったのでしょうか。

ところが人生の終点だと思いついていたら、そこが新たな人生の出发点に転換する道がある。それが仏道だと。

この転換こそが、実に聞法生活によりいただける功德です。聞法の喜びです。念仏の力であります。

去る六月三日（土）・四日（日）の
第二回水島見一先生聞法会の一部で
す。私が聞き取ったご法話に、題名と
小見出しを付けました。
釈迦族の王子に生まれたゴータマシ
ツダールタは、法（真理）に目覚めた尊
者であることから「釈尊」と呼ばれて
います。

釈尊の苦悩

— 危うい幸せを生きている私 —

釈尊がどういう方かと言いますと、仏陀
（ブツダ）、真理に目覚めた人でありま
す。釈尊は、何一つ不自由のない家庭に生ま
れた釈迦族の王子様でありました。
しかし人間がどれだけ豊かでどれだけ恵
まれた生活をしたとしても、逃れること
できないものがあります。

生老病死

それは、生まれたら死ぬことが約束され
ているということです。お腹に身ごもった
その第一歩から、死が約束されるんですよ。
誕生してだんだん頭に知恵はつきますけ
ども、もうすでに「老」がはじまる。「生」
があつたら必ず「老」が出てくる。知らぬ
間にといいいますか、徐々に身体も変わって

きています。髪の毛が一本ずつ抜け、それ
が毎日抜けたわ抜けたわと言っている間に
頭が禿げてくるようなものでありまして、
「老」が着実に進んできてるんです。やが
てその「老」には「病」が伴ってくる。年
取れば色々な病気が出てきますね。血圧が高
くなるとかね、色々なことが出てきます。
そしてやがては「死」んでいく。
釈尊はどれだけ恵まれた家庭に生まれた
かと言いますと、四季折々の別荘があつ
たといわれている。そしてきれいな奥さん
を貰われて、子供にも恵まれていました。
ところが釈尊は一步お城の外に出てみま
すと、老人に出会う。あるいは病人に出会
う。あるいはお葬式の列に出会う。
人間は、生老病死という苦しみから絶対
に逃れられないということです。
お金が無いのは我慢したらいい。しかし
生まれた限り苦しみがある。生苦、老苦、
病苦、それから死苦と。これを四苦と言う。
生まれた限りは、この苦しみから逃れら
れないのです。

人生は四苦八苦

私たち「四苦八苦する」と言いますが、
八苦ですからあと四つ苦があります。
これも私たちが生活の中で、避けて通れ
ないものです。
愛する人とも別れなければならぬ。夫
婦も年取ってくると「どっちが先やら」と

自然に考えるもんですわ。男はたいがい自
分は先に死ぬもんだと考えていますけど、
逆になる場合ももちろんあります。愛する
ものと必ず別れなければならぬ。これも
厳しい現実ですね。親子でもそういうこと
ある。これ順番逆転したら苦しいですね。
年寄りから順番に亡くなっていっても、そ
れはそれで悲しいですね。しかし親が死ぬ
ことは覚悟していきますので、そうだろうと
いう道理に領けます。しかし子供が先に死
ぬとなつたら、これは本当に一大事だと思
います。そういうご経験なさった方もおら
れるでしょうが、それはなかなかの苦しみ
だったろうと推察を申し上げることでござ
います。これを「愛別離苦（あいべつりく）」
と言います。

逆に、なぜこんな人と一緒にいなければ
いけないんだという苦しみ。
何処行っても憎い人が出てくる。邪魔者
が出てくる。何で私の目の前にこんな人が
おるんだという。場所が変わっても憎い人
が必ず出てくる。これを「怨憎会苦（おん
ぞうえく）」と言う。

中学校とか高校とかでは、四月にクラス
替えがあります。新しいクラス名簿を張り
出しますと、歓声があがるんですよ。何で
こいつと一緒にやと。またコイツと一緒にな
ってしまった。そんな歓声あがりません。し
かしよく考えてみますと、どこいっても憎
い人がおるんであるから、問題は相手にあ

るのではなくて自分の方にあるんだということですよ。そこにそろそろ気がつかなくてはいかんのですけども・・・。

憎い人は必ず目の前に出てくる。それ「怨憎会苦」です。

次は「求不得苦（ぐふとくく）」。求めても求めても、足りない足りない私たちが言うんです。求めても求めても満足できない苦しみがある。求めて手に入れたら、もう一つ上がほしくなる。こういう苦しみは、日常的にもよくありますね。

いつも私たちは、まだ足らんまだ足らんと生活をしています。もうちよつとよければと。

高光大船という方がお説教しておられて、昔のことですが、田舎の寺の本堂の隣りに牛舎があった。酪農の方が牛を飼っておられた。その牛がお説教していますと、モーモーと鳴くんです。そうしたら高光大船が、牛はモーモーと鳴く。あれはあれで自然体だ。人間はちよつと違うぞと言うんです。人間は「モー」と鳴き、「ちよつと足らん」と言う。「もうちよつと」、もう少し欲しいとね、求めても求めても不満だと。

これが「求不得苦」です。そして一番最後が「五蘊盛苦（ごうんじようく）」。

五蘊というのは、私たちの存在そのものを指します。肉体と意識も含めて、色・受・相・行・識をいう。色は肉体、受は感覚、

相は想い、行は意志、識は認識です。私たちの存在を仏教で「五蘊」と言うんであります。この五つが我々の存在を成り立たしめているんですが、われわれの存在そのもの、こうして生きていることが苦しいんだという話なのです。

全部あわせて八苦。「人生は四苦八苦だ」と言うわけですよ。私たちは口癖のように四苦八苦と言っていますけども、本当に四苦八苦ですわ。

それを釈尊は、一切皆苦（いっさいかく）だと言う。一切が苦しみだと。

危うい幸せを生きている私

では、何が楽しいのだと。人間の幸せとこのは一体どういうものなのかと。こういう問いかけです。

私は今自分の家に居りまして、奥さんと二人、そして小さな犬と暮らしています。

そんな不幸じゃないというかね、幸せだと。夫婦も会話のない夫婦でないどころか家の奥さんはよく喋る。よく喋る人だから、それは色々な意味で明るいんです。そこに小さい犬がおりますので、ぴよんと膝に乗ったりしますのでね、そりやまあま何とも言えないもんです。それは幸福ですよ。多分家の奥さんどう思っているかわからんけども、たぶん同じこと思ってるんだらうと思います・・・。

ところがテレビとか見ていると認知症

が騒がれているでしょう。私は六十六ですわ。もうじき六十七になります。まだちよつと認知症になるには時期が早いと勝手に思っています。あるいは頭使ったら認知症にならないんだとかね。こんなこと勝手に思ってしまうけども、どういう因縁で認知症が来るかわからないし来ないかもしれない。これはわかりません。家の奥さんが認知症になったら我が家の幸せはどうなるんだ。これは大変だと思えます。

一切皆苦

要するに我々の幸せというものは、今幸せなだけでも、必ず不幸という二文字に約束されている幸せですわ。必ず不幸が内包された幸せです。両手挙げて、ほら幸せだということはありません。お金貯まったらお金貯まったで、無くなるんじゃないかと心配しなくてはならない。金持ちは金持ちでの苦しみがあると思う。立派な建物があつたとしてもね、そこから葬式が出て来る、やっぱし。時機が来ればちゃんとその家からお葬式が出てきますわ。

だから釈尊は世の中一切が苦しみだと言うんです。

では、これを逃れるにはどうすればいいんだと。

これが釈尊の根本的な悩みでありました。そしてそれは誰もが抱えていることであります。

報恩講に向けて



東京港区了善寺住職
百々海(とどみ)
真(しん)師に、本
年もご法話をお願い
しました。

一、当番地区

富山地区(二部・検儀谷以外)

一、準備 ※13時30分から

・役員会 10月18日(水)

・世話人総会 10月22日(日)

・仏具お磨き 11月13日(月)

・前日準備 11月17日(金)

一、法要

・速夜法要 11月17日(金)
準備終了後

・晨朝法要 11月18日(土)
6時30分～

・日中法要 10時30分～

役員・世話人・当番地区の方々・同朋の会の皆様、準備・運営など、よろしくお願ひします。

世話人総会後にあらためてご案内します。ご予約ください。

水島見一先生聞法会

当寺副住職井上泰之の先生をお招きして、聞法会を開催しています。

「自分の境遇に満足できたという事、これが信心なのです。」と、自分思い込んでいた「信心」がひっくりかえるお言葉でした。

第3回は、

12月9日(土) 14時～16時40分

12月10日(日) 10時～11時45分

を予定しています。

『歎異抄白日抄(直道学舎学習テキスト)』をテキストに先生のお話を聴聞いたします。

参加費は、御懇志(決まりはありません)。この会を継続する費用の一部とします。

聞法会は、伝統的に仏法を聴聞したい人びとの御懇志により支えられてきました。

秋彼岸会

九月二十三日(土)

秋分の日

十時～十一時半

どうぞお参りください。

千葉組親鸞教室

「和讃をいただく」というテーマで親鸞聖人がお詠みになった御和讃をテキストに海法龍先生がお話しくださいます。

実施日と会場

10月5日(木) 千葉市浄願寺

12月25日(月) 佐倉市重願寺

1月19日(木) 船橋市法音寺

2月14日(水) 船橋市阿弥陀寺

4月26日(木) 当寺

6月22日(金) 市川市即隨寺

時間 13時～16時

参加費 1000円

住職がご一緒します。

千葉組婦人研修会

女性のための聞法会です。不遠寺住職四衛亮(よつつじあきら)先生がお話しくださいます。

実施日

第一回 1月12日(金)

第二回 6月15日(金)

会場 市川市即隨寺

時間 13時30分～16時

参加費 500円

坊守がご一緒します。

定例法要

※10時～11時30分

修正会 1月2日

春彼岸会 春分の日

孟蘭盆会 8月10日

秋彼岸会 秋分の日

毎週行事

月曜朝のお勤め 6時半～

「正信偈」などの同朋唱和

「御文」拜読 三分間法話

勝善寺同朋の会

実施日と時間

10月8日(日) 14時～16時

2月4日(日) 14時～16時

5月13日(日) 14時～16時

6月3日(日) 9時～11時

※6月は、八日講十日講と合同です。

7月22日(日) 14時～16時

参加費 500円

地区聞法会

八日講十日講

1月7日(日) 9時～11時

6月3日(日) 9時～11時

※6月は、同朋会と合同です。

中佐久間講

5月11日(金) 13時30分～15時30分

花まつり

4月8日(日) 13時30分～16時